

ケーブル端末処理工具取扱説明書

◆概要

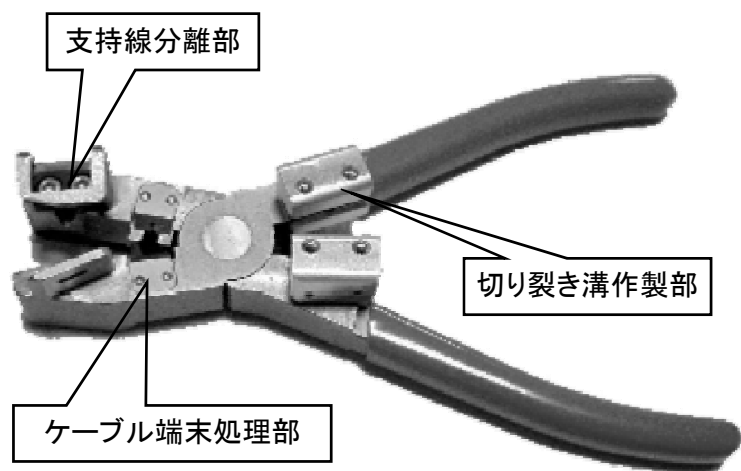
ドロップ/インドアケーブルの端末処理、及びドロップケーブルの支持線分離、切り裂き溝作成を可能としたマルチ工具です。

適用確認品は以下の通りです。

- ・1心SM型IFドロップ光ファイバ「WC」「R15」(1SM-IFドロップ<WC><R15>)
- ・1心SM型IFドロップ光ファイバ「C」「R15」(1SM-IFドロップ<C><R15>)
- ・1心SM型インドア光ファイバ「R15」(1SMインドア<0.25><R15>)

◆ご使用前に必ずお読みください。◆

製品を安全にご使用いただくために以下の注意をお守り下さい。



ご使用にあたって

1. 本工具は1心SM型IFドロップ光ファイバ「WC」「R15」(1SM-IFドロップ<WC><R15>)、1心SM型IFドロップ光ファイバ「C」「R15」(1SM-IFドロップ<C><R15>)及び1心SM型インドア光ファイバ「R15」(1SMインドア<0.25><R15>)に適用しております。

ご注意

1. 機器の本記載以外での使用や分解、注油等は故障の原因となりますので絶対に行わないで下さい。
2. 本体に取り付けられている刃は、鋭く尖っている部分があり怪我の恐れがありますので素手でさわらないで下さい。
3. 製品の故障や異常が発生した場合には、下記の連絡先まで お問い合わせ下さい。

保守・保管

1. ご使用後は清掃を行い、カスやゴミ等ない事を確認した後、収納・保管下さい。
2. 万一水漏れした場合には、速やかにエアガンや乾いたウエス等で水気除去を行ってください。
3. 刃の修理/交換などのお問い合わせは、下記の連絡先まで お問い合わせ下さい。

水気厳禁

注油厳禁

分解厳禁

刃物注意

◆住友電工オプティフロンティア株式会社

連絡先

東京営業所

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング
TEL.03-6406-2800 FAX.03-6406-4032

関西営業所

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜4-5-33 住友ビル
TEL.06-6229-8551 FAX.06-6227-9580

■ 支持線分離 ■

①ケーブルの分離開始位置にガイド<<図1>><<図2>>をセットします。

○●○チェック●○●

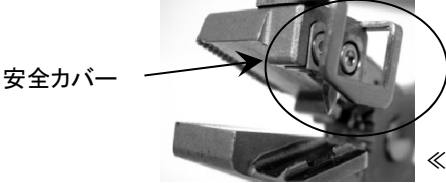
・ガイド(凸部)にケーブルの支持線部を外側に、ファイバ部を内側に乗せます。

②グリップを握り、ケーブルの分離開始箇所に刃先を下ろします。

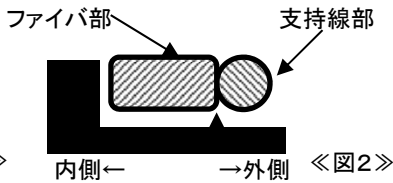
○●○チェック●○●

・ケーブルは切り裂き溝作製部の上のガイド溝に置きます。<<図3>>

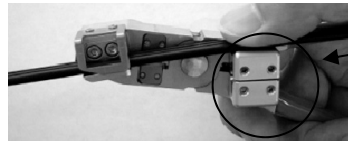
③グリップを握った状態で左手にケーブルを保持し、右手で本工具を手前にケーブルと平行に引きます。



<<図1>>



<<図2>>

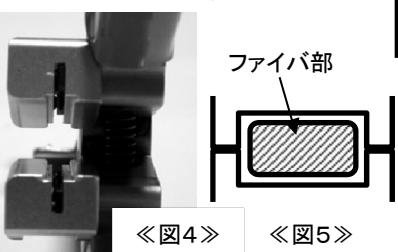


<<図3>>

= 注意 =

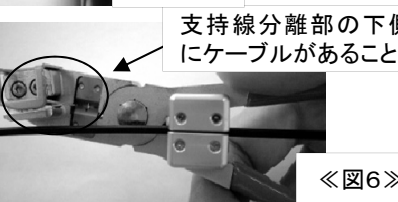
支持線分離部の安全カバーは、刃が指に触れないようにすること、刃先の保護が目的のため、強度は大きくありません。工具の落下等により折れ曲がる可能性がありますのでご注意ください。万一曲がった場合は、弊社までご相談下さい。また末端処理の刃で支持線は切断できません。

■ 切り裂き溝作製 ■



<<図4>>

<<図5>>



<<図6>>

☆☆☆ ポイント ☆☆☆

ドロップケーブルの『切り裂き溝作製』を行う際に、本工具の支持線分離部を利用して分離することで、ケーブル分離面のバリを防ぎ、安定した末端処理が可能となります。

①ケーブル外被の切り裂き溝作製開始箇所を、本品の下側金具の溝部(凹部)に確実に乗せます。<<図4>><<図5>>

○●○チェック●○●

・あらかじめ支持線部は分離しておいて下さい。

②ケーブルが下側金具の溝部に確実に乗ったことを確認した後、グリップを握ります。

○●○チェック●○●

・ケーブルが支持線分離部の下側に来ることを確認して下さい。

・刃がケーブル外被に食い込みます。

・ケーブルが溝部からはみ出ていない事を確認して下さい。<<図5>>

③グリップを握った状態で左手にケーブルを保持し、右手で本工具を手前にケーブルと平行に引きます。<<図6>>

○●○チェック●○●

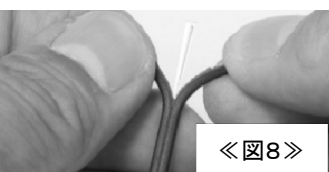
・刃は溝を形成するだけで、決して心線を取り出す事は出来ません。

・ケーブル中間より心線取り出しを行う際には、上記工程にて溝作製後、弊社製工具『ドロップデタッチャ』を使用して作業を実施して下さい。

■ ケーブル末端処理 ■



<<図7>>



<<図8>>



<<図9>>

防護壁型ドロップケーブル[1SM-IFドロップ<WC><R15>]

☆☆☆ ポイント ☆☆☆

ドロップケーブルの『ケーブル末端処理』を行う際に、本工具の支持線分離部を利用して分離することで、ケーブル分離面のバリを防ぎ、安定した末端処理をすることができます。

①口出し開始位置から先端に切り裂き溝を作製します<<図7>>。

②先端の外被を1cm程度引き裂いておきます<<図8>>。

テンションメンバをカットしてからはファイバ心線に力が加わって断線する可能性があるためです。

③口出し開始位置に刃先を合わせ<<図9>>、ケーブルをガイド部の溝(下凹部)<<図10>>にセットします。

○●○チェック●○●

・確実にケーブルをガイド(下凹部)に乗せて下さい。

④グリップを最後まで握り、テンションメンバを切断します。

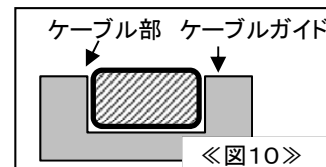
○●○チェック●○●

・テンションメンバが切断される際に『カチッ』と音がしたことを確認します。

グリップを握った状態で工具を口出し側方向に引くと、ファイバ心線が傷ついたり刃が破損する恐れがありますので決して行わないで下さい。

⑤切断部まで外被を引き裂きます<<図11>>。

先端をつかんで引き抜かないで下さい。ファイバ心線が断線したり、ファイバ被覆が剥がれる恐れがあります。

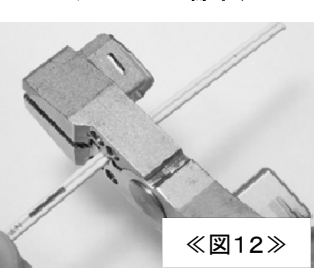


<<図10>>

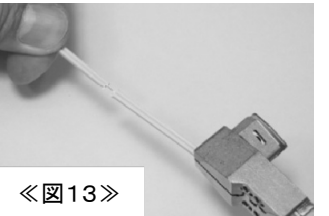


<<図11>>

■ ケーブル末端処理 ■



<<図12>>



<<図13>>

防護壁なしドロップケーブル[1SM-IFドロップ<C><R15>]/インドアケーブル[1SMインドア<0.25><R15>]

①口出し開始位置に刃先を合わせ<<図12>>、ケーブルをガイド部の溝にセットします。

○●○チェック●○●

・口出し長は、10cm以下で行って下さい。

・確実にケーブルをガイド(下凹部)に乗せて下さい。

②グリップを最後まで握り、切断を完了します。

○●○チェック●○●

・テンションメンバが切断される際に『カチッ』と音がしたことを確認します。

グリップを握った状態で工具を口出し側方向に引くと、ファイバ心線が傷ついたり刃が破損する恐れがありますので決して行わないで下さい。

③ケーブルの口出し側の先端を、先端のケーブル把持部(凸凹部)で握ります。

④グリップを握った状態で左手にケーブルを保持し、右手で本工具を手前にケーブルと平行に引きます。<<図13>>

○●○チェック●○●

・ケーブルは、本工具の凸凹部で確実に把持して下さい。

・外被を除去する際、心線被覆を傷つける恐れがありますので、把持部(凸凹部)中央の平坦部分に心線を沿わせ、ケーブル先端部1cm以下を本工具で把持し外被を除去して下さい。万一、心線被覆を傷つけた場合は、上記内容に十分注意し再度施工して下さい。

・引き抜きにくい場合は、手順①～⑤をケーブルの表裏逆にセットし、再度実施して下さい。

・ドロップケーブルで実施した場合、ガイド内のノッチガイド(凸部)の影響でケーブル中心付近の外被に「へこみ」を形成する場合がありますが、内部ファイバ心線への品質上の問題はありません。